

山岡秋崖

やまおか・しゅうがい

誠之館開設御用掛

経歴

生:文政2年(1819年)

没:明治5年(1872年)、享年54歳

嘉永7年(1854年)	35歳	誠之館開設御用掛
—	—	本家を継ぐ
元治元年(1864年)	45歳	国事に奔走のため蟄居
慶応2年(1866年)	47歳	長州再征のとき石州口に出張

生い立ちと学業、業績

諱は次道。字は迂柄。通称は治左衛門。終山・秋崖・秋涯と号した。
山岡機外の次男にして、山岡謙介、岡田吉顕の父。
大森操兵衛は甥。
本家の兄山岡八十郎を継ぐ。

福山藩士。阿部正弘に重用され国政を執り、教育に力を注ぎ、文武を振興した。
嘉永7年(1854年)には誠之館開設御用掛として尽力した。
元治元年(1864年)禁門の変ののち福山藩尊皇攘夷論者とともに国事奔走したため、幕府の忌避を受け蟄居を命ぜられた。
慶応2年(1866年)長州再征のとき許されて石州口に出張した。

和歌を嗜む。

出典1:『近世後期の福山藩の学問と文芸』、93頁、福山市立福山城博物館編刊、1996年4月6日

出典2:『福山藩の教育と沿革史 藩校から小学校まで』、165頁、清水久人著、鷹の羽会本部阿部正弘公顕彰会編刊、1999年8月20日

出典3:『郷賢録』、22頁、福田禄太郎著、福山城博物館友の会編刊、平成12年10月1日2008年8月19日追加●